

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 32 (年4回発行)

■発行日 平成16年3月15日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988

鈴木町長に聞く

町民の意見・要望に 応える町政を・・・



■町長ご就任おめでとうございます。まず最初にお聞きします。町長さんのおっしゃる「町民の目線」という言葉は具体的によどのようなことを指すのでしょうか。

□町民の目線に立つということは、町長になってから考えたことではなく、私の生き方そのものだと思います。議員のときからずっと町民の感覚、立場で議会活動をしてきました。具体的には現場主義、つまり現場を大事にするということです。机上の企画、政策ではなく、現場から生まれるものが本物の政策だと考えます。特に小規模の町では、全ての仕事が町民に関わってき

ます。高いところばかり、あるいは高いところからばかり見るのではなく、町民と同じ立場で考え、行動するということです。

■ひとくちに町民と言っても、三春の場合には約二万人の人口があり、その考えや感覚もさまざまかと思いますが、それをどのようにとらえていくおつもりですか。

□町長という仕事はひとこととて言えば、町の仕事全体を見渡し、把握して、町民のためにどう公平・公正な判断、運営をしていくかです。いま多様化の時代といわれていますが、町民のみなさんの声は確かにさまざま

■次にまちづくり協会についてお聞きします。協会の活動がマンネリ化しているという声もありますが、まちづくり協会のどのような点にご覧になっていきますか。

□まちづくり協会が発足した当時、自分たちの地域は自分たちで創ろう、という目的がありました。それが今もしっかりと根付いていると思います。

自分たちの地域をどうするかを、協会の役員の方々に話を聞いていくのがまちづくりの基本的な考え方です。もう行政主導の時代ではなく、市民の力でまちづくりをしていくのが、安定成長という状況の中で、行政、地域、住民ひとりひとりが役割を認識することが大事です。

■具体的に、どうすれば町民の考えを取り入れることができるかと思えますか。

□職員と語り合うこと、議会と話し合うことはもちろん、町民のいろいろな集まり、イベント、会合に積極的に出ることを自分の姿勢に出しています。

■まちづくり協会の広報紙「三春わが街」についてのお考えをお聞かせください。

□地域情報紙としての重みがあり、たいへん役に立っていると思います。行政サイドの広報ではなく、町民の立場から見て、時代がどう変わっていくのかを伝えて、先取的な考え方なども載せていって欲しいと思っています。まちづくり協会の活動は、部会活動を活発にすることが大事です。それ

によって地域づくりの輪が広がっていくものと考えます。

■まちづくり協会主催の「まちづくり懇談会」についてはどうにお考えですか。

□一回で終わってしまうと形式的になってしまうような気がしますが、もっと回数を増やしても良いのではないかと思います。

私は町民の要望に応えることが大事だと考えていますので、行政主導ではなく、町民の意見・要望を積極的に取り上げていくつもりです。

■二三年ほどまちづくり懇談会の形式を変えて、細かい要望事項というよりも、町の基本的な問題、大きな問題について考えようというようにしていますか、どう思われますか。

□各地区からの要望が少なくなってきたという捉え方には疑問を持っています。懇談会で同じ要望を何年も続けて出しても、いつかこうにやってくれないのであきら



めたというのが実態ではないかと思いますが、それではいけません。

■三春町の財政状況はたいへん厳しいと聞いていますか・・・

□役場の全職員を対象に三日間に渡って町の財政の勉強会をしました。その後職員の色が変わってきたと感じています。

町長就任から今まで、各種団体の新年会などで話す機会がたくさんありました。必ず町の財政状況を話してきました。民間の会社では、経営状態を社員に明らかにして、みんなで力を合わせて業績をあげようとしています。

行政も同じです。トップがその気になって、無駄を省いて節約していこうと思わなければ、職員や町民の理解は得られないと思います。厳しいからこそ知恵を出し合い、協力し合っている状況を乗り切ることが大事です。

財政の健全化に向かって、長期の計画を立ててやっていきます。合併しないと決

めた以上、財政的に自立することが基本となるのです。

■三春まちづくり協会では例え「三春の財政問題を考える懇談会」など、町の問題や課題を町民みんなで考える機会を作ろうと考えていますが、町長さんや町の担当者の方にも出席していただけますか。

口まちづくり協会としてそういう要望があれば、いつでも出席するようにします。予算のことなどは町の広報にも載りますが、広報で見ると実際に話を聞くのでは違うと思いますので、あらゆる機会をとらえて私自身も積極的に出るつもりです、職員にもそう指示しています。

私は普段から町の中のイベントや行事に町職員の姿が見えない、足りないと感じています。特に総括主幹管理職は率先して出るようにと話をしています。町民の中に積極的に入っていつて本音で語り合える雰囲気を作りたいと思います。

■たいへん心強いお話しをいただきましたので、早速実現できるように企画してまいります。最後に、町長さんが描く三春町の五年後、十年後、あるいは五十年後のイメージをお聞かせください。

口将来をどう考えるかという前に、今をどうとらえるのが大事だと思っています。全国的に見ても、子供の虐待や、凶悪事件の低年齢化、外国人による犯罪など

治安の悪化が問題となっています。このままでは大変な社会になってしまうと憂えています。

まちづくりの基本は「安心」と「安全」です。災害からばかりでなく、事件事故が起きないような地域づくりも大事ですので、町としてできることは何かを良く考えて実行していきます。高度経済成長や国際化の中で日本は、金、物、便利さの追求が過剰になりすぎました。はたしてゆとりのある日常生活をおくっているかひとりひとりがじっくり振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。

幸い三春の町の中には自然がいっぱいあります。自然と共生するような余暇の過ごし方をすればそんなにお金もかからないでしょう。休日には車の運転もやめて自然の中で地域の人たちと過ごすような、人間らしい生活を取り戻したいと思えます。

教育の現場でも、自然を生かした学習を工夫してほしいと思います。教室の中だけが勉強の場ではありません。自然との共生、自然の恵みを子どもたちに教えて欲しいのです。

こどもなりの自立を学ぶことにより、社会人になってからもしっかりと自立できるようになると思います。自然と共生し、人間らしく生きられるような社会作りをしたいというのが私の思いです。

■本日はありがとうございました。
（聞き手 広報部会長 中村 利孝）

平成十五年度 各部署の事業活動報告

青少年育成部会

部会では各町内に掲示板を設置しています。催し物や、お知らせのポスターを作成した場合にはこの掲示板を有効に活用してください。利用のお申し込みは各字委員長さんへお願いいたします。（菅井善雄）

環境部会

年度当初に、まちづくり協会でのメインは「ゴミ問題」を取り上げ、広く町民に理解を得て、徹底した指導をしていただき環境の浄化を図って行きたいという目標に向かってきた。

ところが、環境部会で清掃センターの職員の方々の話し合いでは、町長が変わったので予算の裏づけ、経営の方針など、様々な問題を抱えているので曖昧な結果におわった。

次に、全体研修会では、「ゴミ行政についての基本」「ゴミ収集の現状」等について研修を行ったが、これは、まちづくりの会員だけの研修であったので、よい話ではあったが、町全体への浸透はなかつたと思う。その後、まちづくりの懇談会を開催したが、懇談の内容が、三項目もあつたので、ゴミ問題については、時間も短く、それぞれの町民が質問する時間も少な

街並部会

かかった。今回の懇談会のような開催のしかたでは、疑問ばかりが残り、自分の質問したい事が反映できなかった。

町のゴミ問題を個々に徹底させるには、各町で総会や懇談会等をひらいて理解を深め、町の環境浄化を進めていきたいと思う。（鳴原徳子）



①平成九年度から既に十五基の石柱が町内に設置され、今年度は本陣（中町地区）担橋（荒町地区）道路元標（大町地区）の三ヶ所を加え十八基となります。旧城下町にあつて歴史、伝承、或いは地理にちなむ地名等せまい範囲に複雑な地名を沢山織り混ぜた点は周辺地区にはない特色と云えるでしょう。今後の設置にあつては、歴史に関係あつて年月の経過により人の記憶から薄らぐ様な史跡を対象に若干視点を

福祉部会

- ②設置した石柱の状況確認と清掃を二回実施しました。
- ③三春の碑探訪を地域部会と合同で実施しました。
- ④街並部会勉強会
- ・歴史民俗資料館特別展 三春藩主秋田氏 六月五街道について 十一月（根本孝季）



福祉部会では、例年町内外の福祉施設を視察研修することとしています。

十五年度は、十月十六日沢石福祉会館・三春町福祉会館を、視察研修いたしました。各施設スタッフの皆さんの努力により、地域の皆さんが元気に利用しており、福祉の増進に努めておりました。福祉施策について懇談研修を行い有意義な一日でありました。高齢化が進むなかで、これからますます施設の充実した運営が望まれます。（村上弘）

地域部会

私達は三春町中心街散策



今年度は、築城五百年祭がおこなわれます。遠くからおいでになる友人・知人と共に歩き三春町の歴史・文化のお宝を案内してみたいかがですか。

※町内の石柱・散策路を載せた地図を作成中。四月に全戸配布する予定です。（大越輝夫）

編集後記

以前、「情報の伝達として三春町にケーブルテレビを」と活動していた小さなグループの話し合いに参加したことがある。その中で「人口、二万人弱の三春町の情報の伝達方法はうわさ話がちょうどいい」という意見がでた。その時、思わずうなずいたが、よく考えてみれば、うわさは正確に伝わらない欠点がある。それを補うのが、インタビューや取材をもとにする「三春わが街」ではないだろうか。

先日、町長との話の中で、「三春わが街」の紙面のイメージを聞いたところ「町づくりを住民の立場でとらえた重要な地域情報紙」という評価があつた。そこで、行政、住民のパイ役として両者の考えを正確に伝えるため紙面を大いに活用することを提案したい。

これからのまちづくりにあたらしい風を吹かせる手段として「三春わが街」が役立つことを願っている。（降矢）